平成３０年度　上田市立西小学校　　学 校 評 価 中 間 報 告　　上田市立西小学校

学校教育目標・目指す児童の姿	今年度の重点目標	成果と課題	改善策・向上策	評価
進んで学び， 豊かな心をもって， たくましく生きる子	○かしこく 《学力向上》	児童アンケートの結果から、９割以上の児童が授業は分かりやすいと感じている。また、みがき活動等を通じ、計算力、表現力がついてきていると多くの児童が感じている。しかしながら、自ら調べたり発言したりなど児童の主体的な学びという点においては課題が残っている。	夏休み中に実施した学力分析と今後の取り組み、各種研修、重点研究の成果課題をもとに、引き続き「わかる授業」の工夫、「ねらい、めりはり、みとどけ」の 3 観点を生かした授業の展開を各学級で実施していく。また、児童の意識に沿った学習問題・課題を設定したり学習形態を工夫したりするなど子どもたちの主体的な学習につながるような授業改善に取り組んでいく。	B
	○やさしく 《人間関係力向上》	各学級・学年での友だちとの関係作り、地域との交流や異学年との交流、地域ボランティア活動を行ったことで、幅広い人間関係をつくることにつながっていった。児童アンケートの結果から、９割近い児童が思いやりの心をもって、友だちにやさしくできると感じている。しかしながら、できていないと感じている児童が約1割いるので、その子どもたちに寄り添っていく必要がある。	学校生活全般、教科指導において人権教育の視点をもって取り組む。また生活11月に実施される第２回なかよしアンケートや学校生活の様子、QU検査の中から把握し、すぐに手立てを講じるようにしていく。また、道徳・人権教育・生徒指導などの時間で自己肯定感を高めるような支援を考えていきたい。	B
	○たくましく 《体力・精神力向上》	毎朝継続して取り組んでいる身体みがき、月 1 回のみがき集会、児童会主催ペアマッチなどを全校で取り組んできた。1 学期には運動会があり、各学級学年ともめあてをもって運動に取り組むことができた。また、休み時間や放課後、帰宅後、校庭で遊ぶ姿が見られ、体力向上へとつながっている。一方で体を動かして遊ぶことのよさを感じていない児童もいる。	2 学期から冬場にかけて、校庭で遊んだり、帰宅時刻が早いため帰宅後外で遊んだりする機会がほとんどなくなり、運動不足が心配されるので、冬でも継続してできる運動に力を入れていきたい(なわとび、マラソンなど)。体育の授業を通して体を動かす楽しさを味わえるようにする。また、身体みがきの体操を家庭にも伝えていきたい。	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策	評価
教育活動	教育課程	◇運動(身体みがき)，ドリル(頭みがき)，表現(声みがき)，人権（心みがき）の実践と評価	日課の中に位置づけ，実態に応じた内容で全校で実施し，伸びを評価できたか。	週３～４回朝の時間にみがきの時間を継続して取り組むことができた。児童ｱﾝｹｰﾄの結果から、それぞれ80％超えの児童が、みがき活動によって成果を感じていると答えていた。一定期間同じ課題に取り組むので子どもたちは成果を感じやすいものになっている。一方で成果を感じている児童の割合がやや低下している。	みがき活動を通して、学力の定着や活用、表現力の向上につなげていけるような取り組みを、今後も考えていく。そのために、児童が意欲的に取り組み伸びを実感できるような題材を吟味していきたい。さらに、振り返りや自己評価をする場を、今後もしっかり位置付けていく。	B
		◇特別支援教育の考え方と手法を取り入れた指導	掲示，発問，環境の工夫，個別の指導計画の活用，学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか。	掲示物、座席の配慮などの教室環境、視覚支援、発問、学習形態などの授業の工夫など児童にとって学習しやすい環境作りを年度当初職員間で確認してきている。また、個に応じた支援の充実のため研修などを通じ個別の指導計	年度当初、全職員で特別支援教育の考え方と手法を取り入れた支援・指導について確認し、共通理解のもと取り組んできた。さらに個に応じた支援・指導が十分に行えるようにしていく。特に大型テレビ等を有効に活用し視覚支	B

			画を作成した。	援を充実していきたい。また、児童の実態に合わせ個別の指導計画を更新していく。	
学習指導	◇基礎学力の定着と活用･表現力の向上	基礎を繰り返す「頭みがき」を中心にしながら基礎学力の定着が図れたか。	児童ｱﾝｹｰﾄ「頭みがきを続け、計算力がついた」では、AB評価が83％であった。一定期間同じ課題に取り組んでいる。時間内にどれだけ問題ができたか自分の成果が分かりやすく、取り組みへの意欲が高まっている。また、授業が分かりやすいと感じている子が90％いる。	頭みがきの活動での達成感や学習意欲を算数だけでなく他教科にもつなげていく。また、課題の内容についても児童の実態に合わせ吟味し作成していく。また、授業の 3 観点を意識した授業作りに取り組み、基礎基本の定着を図っていく。	B
		繰り返しの「声みがき」を中心としながら，自己表現力の向上を図れたか。	児童ｱﾝｹｰﾄ「声みがきに取り組み、楽しく音読や歌を歌うことができた」では、AB評価が84％であった。児童は毎朝大きな声でスタートすることができている。一方で授業中発言できるという児童は、66％に留まっている。	みがき活動では、音読や歌を各学級で取り組んでいるので、さらに興味を持って、楽しくできるような取り組みを考えていきたい。さらに、安心して表現できる学級の雰囲気を醸成し、自分の考えを伝えたくなる授業作りを通し、自己表現力の向上へとつなげていきたい。	B
		毎日の読書の積み重ねを通して本に親しむ子どもの姿が見られたか。	毎週月曜日の朝の 15 分間、読み聞かせボランティア「ぶんぶんぶん」による各学級での読み聞かせ、図書委員会によるおすすめの本の紹介、2，3 年生の「本は友だち」事業などを実施した。図書館の時間や朝の読書の時間等、本に親しむ姿が見られた。	本に親しみを持つ子児童が多いので、今後、読書旬間の実施し本とふれあう機会を多く設ける。また、家庭での読書の仕方について考えたり、様々なジャンルの本や学習と関連した本なども積極的に読んでいけるような機会を考えたりしていく。	B
		「家庭学習のてびき」家庭学習ノート「紡ぐ」を活用し，家庭学習の習慣が身についたか。	昨年度より家庭学習ノート「紡ぐ」を使用し、学習時間やメディア時間の計画を立てている。また、自主学習にも取り組んできた。児童アンケートの「家庭での学習にすすんで取り組んでいる」の項目では、84％がAB評価で昨年度と同程度だったが、自主学習に意欲的に取り組む児童が増え、家庭学習への取り組みが向上したと感じている児童もいる。一方で具体的な成果を感じていない児童もいる。	「紡ぐ」は、今後更に多くの児童が取り組みのよさを実感できるような運用を考えていく。ふり返りの機会を定期的に設け、児童の家庭学習への関心を高めていきたい。また、学年通信や学校だよりでも家庭にその意義について発信するなど家庭との連携も深めていきたい。さらに、家庭学習の中身についても、自主学習例の紹介をしたり学年に応じた内容を工夫したりしていく。	B
生活指導	◇あいさつと交流による敬意に基づく集団の形成	あいさつ運動や異学年との交流，西小アドベンチャーなどを通して，子どもどうしの繋がりを深めることができたか。	本校の特色の一つである「ハイタッチあいさつ」が、6 年生や児童会を中心に全校の子どもたちに定着している。しかし、大きな声で、気持ちのよいあいさつができる」は、74 ％とやや低下してきている。全校で取り組むハイタッチあいさつに加え、学年学級で個に応じた取り組みが必要である。	今後も児童会を中心に「ハイタッチあいさつ」に取り組んでいく。それとともに、各学年でも子どもたちの発想を活かしながらあいさつへの取り組みを決めだし活動していく。これによって多くの児童があいさつのよさを感じ、さらにあいさつの輪が広がるようにしていく。	B
		生活科や総合的な学習を通して地域の理解や繋がりを深められたか。毎朝の「身体みがき運動」を中心に身体の健康の維持や向上を図れたか。	保育園・幼稚園との交流、高齢者との交流、太郎山登山、米づくり等を通して、地域とのかかわりやつながりの場を作ってきた。また、地域の自然や歴史を教材化し、地域のよさに触れる活動に取り組んだ。	地域の素材を扱うだけでなく、実際に地域に出て調べたり聞いたりしながら人と交流し、そこから学んだり、発見したりできるような学習展開を工夫していくなどどのように学習を展開していくのか、その中味も吟味していく。	B

		◇心と身体みがき	毎朝の「身体みがき運動」を中心に身体の健康の維持や向上を図れたか。	児童ｱﾝｹｰﾄ「身体みがきの運動に取り組み、進んで体を動かす」では、AB評価が86％であった。学校では毎朝実施しているが、家庭でも継続的にできるとよい。月１回全校で集まって行う「みがき集会」も、継続して取り組む意識づけとなっていた。	学校での身体みがきの継続を進めるとともに、家庭でも継続して取り組んでいくことを発信していきたい。身体みがきの意義や効果を考え、自分の身体に関心をもち、自分から取り組む良さや喜びをさらにもてるようにしたい。	B
			無言清掃や道徳教育を通して，頑張る気持ちや人権感覚を高められたか。	児童ｱﾝｹｰﾄ「清掃はしゃべらず、一生懸命取り組む」では、AB評価が77％である。児童会でそうじの合い言葉を決めるなどしているが、取り組みにばらつきがあった。「思いやりの心をもって、友達にやさしくできた」では、AB評価が88％であった。	学年に応じた清掃で目指す姿を具体的にしていく。一人ひとりの分担を明確にし、きれいになったことが分かるやりがいのある清掃活動にしていく。また、11月は「なかよし月間」なので、前期の人権教育を振り返りながら、さらに思いやりの心や人権感覚を高められるように取り組んでいく。	B
学校運営	地域との連携	◇地域の素材・人材を活用した教育活動	地域の素材・人材と関わりを持った学習活動が展開できたか。	児童ｱﾝｹｰﾄ「西小のまわりの地域のことや、人物の学習をしている」では、全校ではAB評価が73％であり、昨年度より高くなっている。社会科や総合的な学習で地域の素材や人材との関わりをもった学習を行っている。	後期以降も、地域の素材・人物との関わりを大切にした学習活動を積極的に実践していく。それとともに地域の人・もの・ことのよさを実感できるような学習展開を工夫していく。	A
		◇信州型コミュニティースクールの推進と学校支援ボランティア活動	地域と連携した学校支援ボランティアを組織し，活用するとともに，広く広報できたか。	学校支援ボランティアの説明会を行いボランティアを募った。学校支援ボランティアの方々に、様々な場で関わっていただき、成果も上がってきている。放課後学習室、クラブ活動、登山、米作り、園芸、清掃等様々な活動で、地域の方、大学生、専門的な知識や技能を持った方々と積極的な関わりができた。	学校支援ボランティア、信州型コミュニティースクールに関わる情報発信を校内掲示、学校だより・学年だより・ホームページ等により一層行っていく。また、今年度の活動の成果と課題を、来年度に活かせるよう引き継いでいく。	B
	研修	◇学習指導の充実や児童理解を深めるための研修や地域保護者との信頼を深めるための研修	授業研修会や生徒指導研修会，非違行為防止研修会を継続的に行い，職員の意識を高めることができたか。	一人一公開授業の実施、算数・道徳・外国語活動の重点研究、学力向上のための分析と研修会、特別支援教育の研修会、非違行為防止研修会などを実施し、日々の授業に生かしたり、職員の意識を高めたりしてきた。	研修・重点研究等を通して職員の指導力向上を図りたい。さらに、研修してきたことを職員会議や学年会などで職員で共有できるような場を設けていく。さらに、適宜生徒指導・児童理解を深めるための研修、非違行為防止研修会を位置づけていく。	B

評価：Ａは「十分に達成された」　Ｂは「基本的に達成された」　Ｃは「達成されたが課題は残る」　Ｄは「全体的に達成されていない」を表している。
7月に「第１回児童アンケート」12月に「第２回児童アンケート」を実施し、結果を考察し各学年取り組みを決めだしています。また，最終報告に向けて教職員アンケート，保護者アンケート，学校評議員会アンケートを実施する予定です。「音楽会」「運動会」については，保護者アンケート形式でその都度実施しています。